

審査吟じきった！次なるステップへ！

会長 鈴木 精成

今年の千代田の春「昇伝審査会」は予想通り晴天に恵まれました。

冒頭、余談めいて恐縮ですが審査会から窺う庭園に白無垢の花嫁が楚々と佇む情景は「千代田の審査会」ならではのことに出席会員も幸せを感じるひとときだったと思います。

当日、幸せを結んだ七組（会館で確認）のカップルに私達の万歳の気持ちを贈ります。

今年も本部から家吉精雄、奥村精暉、秋山精正

院吟日本流精岳

ちよあ

第 5 9 号

平成 3 0 年 5 月

千代田岳精会弘報

平成三十年指標
古きを知る

の三先生をお迎えして、平成三十年昇伝審査会が一九〇名の受審者が集い厳粛な中にも明るさ一杯の情景のもと開催されました。いつもながら、審査を受ける皆さんの真剣な面持ちには感動いたします。緊張感と昂揚感が醸し出す雰囲気は審査会独特のものであります。

審査の三先生には、多人数の審査というご苦勞をおかけいたしました。心から感謝申し上げます。審査席上での先生方の講評と助言は私達にとつて、今後の精進への大きな指針となったものと思えます。

当日のお言葉のいくつかを次に記します。

◆詩吟は「母音の芸術」です。母音発声の口の形を覚えて、きれいな発声を心掛けましょう。（教場での発声練習では口の開き方に注意しましょう）

◆詩吟は「語り」である。滑舌を生かして言葉の内容を明瞭に伝えよう（アイウエオアオ…の練習を大切に）

◆「上音」発声も大切だが「下音」発声も大事なり（「齋下丹田」に意識を集めて）

「審査会」を終えたこれからは、引き続き「全国吟道大会」です。六月十四日（木）、新設の『カルツかわさき』で開催、千代田からも二二六名が予定されています。一般合吟での全員登壇、男女チームの合吟コンクールへの出吟等々、盛り上

がった一日になるよう願っています。

昨年、全国第四位の好成績を果たした「武道館合吟コンクール」へ今年も男子チームが出場することになり、十一月十日（土）の本番に向けて、四〇名の候補メンバーによる練習が開始されました。昨年を上回る好成績を目指してご健闘を祈ります。

今年の千代田のスローガンは「楽しい教場を皆でつくる！三〇！」です。幸い年のスタート早々に教場内教室（熊谷教場妻沼教室）が開設され、「三〇教場」目標は達成されましたが、新しい拠点づくりには「教場が増えれば、勉強の機会が増える」という意義もあります。

教場それぞれの取組みにより、新しい地域、新たな人脈への発展を求めて、拠点づくりを進めましょう。

年間四回の「友呼びの日」キャンペーンも展開中です。この日を中心に独自のチラシづくりを進め活用している教場が増えてきました。心強い限りです。継続的な取り組みは、必ず成果につながります。頑張りましょう。

本部推進の「白地地区解消」キャンペーンの先頭をきって、鹿児島での教場開設がいよいよスタートしました。当会、山口龍央副会長と田尻映山丸の内教場副教場長が未開の地で指導の大役を担うことになりました。絶大なるエールを送り、会員として出来る支援をお願いします。



岳精流役員人事

総本部の新年人事が次の通り発表されました。

◎総本部役員人事 平成三十年一月一日付

相談役 鈴木 精成

副幹事長・指導本部員 山口 龍央

広報部顧問 八田 龍仁

千代田岳精会人事

平成三十年四月一日付

◎桜ヶ丘教場 副教場長 藤村 恵山

同 玉置ナラエ

◎新陵教場 副教場長 西川 清悟



新緑の上高地
星野久風(清水)

春の昇伝審査

こだま

力強い吟声、新緑に飴す

厳しい冬から一気に桜の開花が駆け抜け夏も近いと思わせる一日、東郷神社クラブ水交会で四月二十一日(土)春の恒例行事、昇伝審査が総本部から家吉幹事長、奥村副幹事長、秋山副幹事長の三先生を審査員にお迎えして、一九〇名の会員が審査を受けました。

先生方から受審者一人ひとりに熱のこもった指導と懇切な審査があり、終了後「恵まれた会場、気迫ある受審者、気持ちよく審査が出来ました」「これから流統の中核と期待できる人が多かった」「来年、審査に来るのが楽しみです」と総評を戴きました。長時間有難うございました。

◎中伝合格者

二二名

丸の内支部 館脇 悠山

同 近藤 美山

同 中島 義山

日暮里 吉田 紀山

鎌倉 酒井 英山

同 長谷場純山

桜ヶ丘 笠 泰山

同 木下 正山

神楽坂 久保 洞山

調布 渡辺 慎山

熊谷 奥野 陽山

同 和栗 美山

◎初伝合格者

二七名

丸の内支部 石母田喜泉

同 前田 春泉

日暮里 藤原 玲泉

同 山口 昭泉

鎌倉 八幡 通泉

桜ヶ丘 玉置 玉泉

清流 西川 規泉

東陽町支部 本橋 英泉

神楽坂 與座 美泉

熊谷 熊谷 紀泉

同 石川 紀泉

同 中里 麻泉

同 村田 雄泉

同 小池 真泉

同 小島 江泉

中野 落合 正泉

同 金井 俊泉

ハザマ支部 上田 壽泉

同 新陵 青木 青泉

山上 香山

堀田 宣山

森坂 雄山

湯浅 和山

神谷 知山

三島 寿山

宮永 明山

半村 晃山

矢野 隆山

生田 飯島 飯泉
みなとみらい 滋野 彦泉

同 加藤 雄泉

新宿支部 町田 惠泉

新宿第二 青山 昇泉

新宿第三 湯田 直泉

同 船場 紀泉

新宿第四 佐野 照泉

「泉」号を戴くにあたり

桜ヶ丘副教場長 玉置 玉泉

今回、昇伝審査を受けるのは四回目になりましたが初伝で泉号が戴けるのは自分の持つ力を考えると面映ゆい気持ちです。

私が詩吟を習い始めた時、家族も友人も「冗談でしょ？」と驚いていました。それほど文化的なお稽古事や叙情的なものとは縁遠い人間なのだと思います。そのような私が詩吟を続けることが出来ているのは指導して下さる先生方や教場長、そして教場の皆様の優しい雰囲気のおかげです。

桜ヶ丘教場はメンバーが三十代から九十代の方までと年代も幅広く、ここでしか巡り合えなかったようなお付き合いができ、幸せに感じています。今までは初心者だからということに甘えていましたが、なかなかそうもいけなくなってきました。今回の昇伝審査でご指導頂いたことを忘れず、少しずつでも上達できるように頑張りたいと思います。

初伝審査に臨んで

東陽町 本橋 英泉

四月二十一日、東郷記念館で平成三十年度の初伝審査を受けました。その時に課題吟の選択権が自分に与えられた場合に、二つの指定吟題の何れを吟ずるかを考えました。今年の受審者は発表会やコンクール等で馴染みの多いためか「青の洞門」を選ぶ人が多かったようです。私は新しいものに挑戦する、より難しいものにチャレンジしようなどと考え、暗譜にやや不安があるものの思い切って「兎に示す」を選びました。

この吟題は詩の背景を含めてなかなか難解なため、絶句や誤読をしないように神経を使いました。その為か絶句や誤読はなかったものの、吟じ終えた時に奥村先生から「節調が岳精流と異なるところがあった」との指摘を受けました。私はかつて神風流や且早流などの会に所属していたことから、詩文に集中するなかで他の節調が一部混入してしまっただけでした。

今後は吟題の選択、詩文の素読、節調の定着化などに一層、意をもちいてよりレベルの高い詩吟を目指す覚悟です。

カラオケと詩吟と健康

中野 落合 正泉

私は元々腎臓が悪く八年前から透析をしております。その間胃癌を二回、膀胱癌を三回、心臓狭心症を三回と入院を繰り返しております。お

陰様で早期発見で内視鏡の処理で命を永らえております。

私はカラオケ演歌が好きで色々な大会等に参加していましたが、透析を始めてから段々声が出なくなり悩んでおりました。現在は、カラオケは休んでおります。

たまたま、詩吟を習っている友人の勧めで詩吟は声を前に出すのでやって見たらとの勧めで中野教場に四年前に入会致しましたが、レッスン日と透析日が重なっており、終わってすぐ駆け付けております。それでも先生方はじめ教場長、また会員の皆さんが親切に接して頂き、大変感謝しております。

カラオケと吟詠を比較すると吟詠の方が数段難しいと思います。カラオケは楽譜によってメロディ、リズム、音の長短、メリハリ、さび等が全て書かれており、譜面が読めればすぐ理解できます。吟詠は発声法から始まり、強い声で押し出し、引きは無いと聞いております。また詩をよく解読し言葉をはっきり、ゆったり噛みしめて吟じ、しっかりした呼吸法を身に付けなければ上手く出来ないと少しづつ分かってきました。

私も八十歳を過ぎました。健康の問題もありませんし、いつまで続けられるか分かりませんが、身体の続く限り、声の出る限り頑張りたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



初伝を賜り有難うございました

みなとみらい 滋野 彦泉

この度の雅号「彦泉」を頂き感謝申し上げます。詩吟入会の声を掛けて頂き、あつと言う間の三年私にとりまして大きな節目となりました。丁度私が七十歳の時、新陵教場にお世話になりました。もとより詩吟に対して知識も経験もなく、岳精会がいかなるものであるかも分かっておりません。入会早々から二〇名位の諸先輩と共に吟の節調、詩の意味等、全く解らないままに、鈴木精成先生から見よう見真似で教えを受けました。大きな声だけが取り得であり、思い切って吟じておりましたが、先生から演歌歌手そのものだと言われておりました。今も引きずっております。

この間、感じた事は二つの活性化です。一つは頭の活性化でボケ封じの為の詩吟が頭の中で大きく成長し活性化の大きな原動力となつています。二つ目は身体の活性化です、腹からの呼吸と大きな声を出す力が大いに役立ち、体力維持につながっております。今まさに話題になっている健康法の実践です。

現状は何か吟譜が読めるようになり、またコングラタールを教えて頂き、少しずつではありますが進歩致しております。問題点は正確に吟じようとするので、大事に吟じて吟のスケールが小さくなるように感じます。

鈴木先生の教えの中で「読みは鋭く、節調は長く」を常に念頭に置いて吟を勉強していければと願っております。

今後共にご指導賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

雅号「泉」をいただいて

生田 飯島 飯泉

新緑の美しい境内を通り抜け、東郷神社に一礼をして会場に入りました。四回目の昇伝審査になります。

当日は軽い発声練習をして自信の無いまま入室いたしました。常に声が小さい、もつと大きな声で！息を充分吸って腹から声を出す！間の取り方、息継ぎ！常に諸々の注意を受けてまいりました。

ガラス越しに花嫁姿を目にしながらの吟、二択のうち「兎に示す」を希望。結句で詰まり、あせりましたが何とか吟じ終わり、家吉先生にちよつとだけ褒めて頂き、入室した時とは違った気持ちで退室できました。

詩吟を全然知らずの入会でしたが、晩年になつてからの趣味が増え、今ではすっかり詩吟の世界にはまり楽しくなっております。

初伝の雅号「泉」を頂き感謝いたします。

これからは、いろんな催しに積極的に参加して正しい岳精流を会得してまいります。指導して頂いた鈴木会長をはじめ諸先生、諸先輩に助けられた結果です。本当に有難うございます。初伝「泉」の名に恥じぬよう精進してまいります。今後とも宜しくご指導くださいますようお願いいたします。

初伝への挑戦

新宿第三 湯田 直泉

新緑に包まれた、東郷神社クラブ水交会において平成三十年の昇伝審査が開催されました。

思い起こせば詩吟との出会いは、高校同期生の酒井龍帆（故人）先生から数年にわたり熱心に誘われ、十年近く行って来た地域活動を少し整理し、平成二十六年六月に入会をしました。入会時は、七十六歳で後期高齢者の仲間入りをしており、習い事を始めるには遅きに失する感もありました。が、歴代の教場長さんを始めとする諸先生方のご指導を頂き、ようやく四回目の昇伝審査を受ける機会を頂きました。

審査は総本部から家吉幹事長をお迎えし開催されました。指定吟題は二題あり先生から「兎に示す」にしましょうとのお言葉、練習不足の吟題に、緊張と不安で頭の中が真白。暗譜をしていたつもりが承句に入った所で絶句寸前、やっとな吟じ終え、先生から「言葉をしっかりと読む」とのご指摘。承句を再度先生のご指導のもと吟じ、最後に「声量は良いです」との講評を頂きました。

今回、初伝の雅号を頂き、これまでご指導頂いた諸先生方並びに先輩各位に感謝申し上げます。これからも精進を重ね、吟道を究めたいと考えております。



昇伝審査に参加

みなとみらい 加藤 雄泉

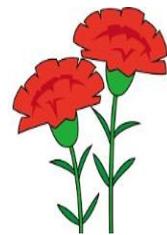
平成二十七年一月に七十二歳で新陵教場に入会。平成二十九年五月にみなとみらい教場新設と同時に移籍、移籍組四名と新入会員八名にて新教場がスタートしました。最初は鈴木会長が吟指導からコンダクター伴奏まで一人で担当して頂きましたが、負担が大きすぎるとはなにかと田川教場長と相談し、伴奏は自分達で行うことに致しました。例会日の課題吟譜は事前に作成し、会長に添削して頂き、正しい吟譜を会員に配り、練習を励んでおります。

さて、審査当日はみなとみらい会員八名のコンダクター伴奏を仰せつかり、数十日前から会員の詠う吟を暗譜し、当日は会館の前で各人と音合わせを行い本番に臨みました。何しろ公式の場で伴奏するのは初めての事であり、自分の吟の事より伴奏の事で頭が一杯になり、緊張いたしました。審査が始まるにつれ慣れていき、落着いて伴奏出来ました。

審査して下さいるのは家吉先生であり、評判通り、ユーモアに溢れ優しく、かつ的確なご指導は新人の多いわが教場の男女会員方の緊張をほぐし、実力を引き出して頂き感謝いたしております。私の番になり、初伝は二つの課題吟の中から先生指定の吟を詠ずるところを厚かましくも自分からお願ひして「青の洞門」を吟じさせて頂きました。講評として、「今後は詩情をどう表現するかの工夫、研究、勉強をして下さい」とのご指導を受け、

これからの私の重要課題として取組んで行く所存であります。当日の運営にご尽力いただきました諸先生にお礼申し上げます。

岳精流 全国吟詠コンクール大会



平成三十年の岳精流全国吟詠コンクール大会が三月十八日(日)にかわさき保育会館で開催されました。この大会は隔年で開催されており、各会・支部・教場から選抜された会員が部門毎に出場し、日頃教場で鍛えた吟を披露します。

今回は幼年の部二一名、少年の部九名、一般の部六〇名、寿栄の部二九名、総計一一九名が全国から集いました。

千代田からは会員数により少年の部一名、寿栄の部五名、一般の部五名の出場でした。

今回の特徴は幼・少年の部に三〇名という出場者があったことで多摩、長良川、六郷、天童王将の各会及び品川支部と幼・少年育成への取組みが現れており、千代田は会設立の経緯から弱点であるこの部門への取組みを検討する時期かと思えます。

次の方が入賞となりました。おめでとうござい

○寿栄の部

優勝 田尻 映山(丸の内)

二位 粕川 紘風(神 田)

○一般の部

十位 鎌田 秋泉(丸の内)

各部門大接戦で、審査時間が大幅に延びました。千代田から優勝者が出たのは初めての事です。その他の出場者も大健闘でした。それぞれ充実の時を持たれたと思います。

感謝で一杯です

丸の内副教場長 田尻 映山

一か月前から緊張が続き不安一杯の出場でした。吟を始めて十年、やっと教えて頂いた事が実感として味わえる様になってきた時ですので、大変に嬉しく思いました。長い間ご指導下さった先生方、一緒に学んできた吟友、当日会場まで来て応援して下さいました方々に感謝申し上げます。家庭の中しか知らなかった私にとって、吟を通して色々な方々とご縁を頂き世界が何倍も膨らんだ気がいたしております。教場での二時間、千代田の色々な勉強の場、吟道の楽しさにどっぷりと嵌っていったように思います。

五月から鹿児島の新教場のお手伝いをする事になりました。宗家の言われる「人のご縁を大切に」「仲良く楽しみ吟ずる」などなど心して歩みたいと思えます。

(「龍吟」優勝者感想から抜粋転載)

寿栄の部 準優勝拝受

神田 粕川 紘風

三月十八日全国吟詠コンクール出場、図らずも準優勝を頂き誠に光栄であります。

詩吟を始めて以来最良の日となりました。有難いご縁があったからと思います。二月と三月の初旬に鈴木会長、岩崎先生のご指導を頂いた事が大きな要因となりました。また、吟題「家兄に寄せて志を言う」広瀬武夫作の吟は今までになく、伴奏曲と調和していたように感じました。

広瀬武夫は一八八九年海軍兵学校卒業後、一八九七年ロシア留学。ロシア語などを学び、旅順港などの軍事施設も見学する。その間ロシア海軍高官の娘アナトリーコワリスキー・アリアズナと恋仲となるが一九〇二年に帰国。一九〇四年より始まった日露戦争において旅順港閉塞作戦に従事する。三月二十七日、第二回の閉塞作戦において閉塞船福井丸を指揮していたが、敵艦の魚雷攻撃を受けた。

撤退時に広瀬は自爆用の爆薬に点火するため船倉に行った杉野上等兵曹がそのまま戻ってこない事に気付いた。広瀬は杉野を助けるため一人沈み行く福井丸に戻り搜索したが、彼の姿は見つからなかった。やむを得ず救命ボートに乗り移ろうとした直後、敵弾の直撃を受け戦死した。享年三十六歳だった。

私は今年喜寿を迎え、これから残りの人生をスタート致します。微力ですが吟友の皆様のご支援

を賜り、世の為に貢献して参りたいと存じます。

全国吟詠コンクール初入賞

丸の内 鎌田 秋泉

詩吟を始めてまもなく六年になります。吟剣詩舞道連盟のコンクールは毎年港区で入賞し都大会に出場していますが、二年に一度の岳精流のこのコンクールには人数枠があるため、なかなか出場が難しい。今回図らずも教場から二度目の推薦を頂き出場することが出来ました。

大会は三月十八日かわさき保育会館で寿栄の部二十九名、少年の部九名、幼年の部二一名、一般の部六〇名が集まり、宗家が審査委員長、全国の会長一四名の審査員を前にしての吟詠でした。当日は全国からの出場者、応援者で会場に入りきれないほどで緊張した重々しい雰囲気の中、一般の部で十位に入賞を果たすことが出来ました。前回は力不足で入賞出来なかったのが喜びも倍増です。応援に来て頂いた教場の方々に感謝申し上げます。

吟題は「家兄に寄せて志を言う」を選びました。今回は千代田から出場する十一名全員に対し、本番対策として鈴木会長、岩崎先生の吟詠指導及び萩原研修部長、平井神田教場長のコンダクター伴奏、吟詠計時等の応援特訓を二回もして頂くと共に、自分なりの対策として川口カルチャーで宗家のこの詩の指導ICレコーダを何度も繰り返し聞き練習すると共に、前回の失敗の反省から酒を少し控え頑張りました。

この大会の一週間後に行われた港区予選で四

位に入賞し、五月の都大会、更に六月の全国吟道大会での合吟コンクール、十一月の武道館合吟コンクールのための練習及び教場での通常練習が続きます。今後も体力の続く限りチャレンジしていくつもりです。

最後に当日、鈴木会長、岩崎先生はじめ千代田の幹部、教場の方々の応援を頂き大変励みになりました。今後とも更なるご指導をお願い申し上げます。お礼とさせていただきます。



日本吟剣詩舞振興会 吟詠コンクール

品川区コンクール当日の思わぬ春分の日のお雪に驚かされました。

岳精流吟詠コンクールに続いて年初の恒例行

事、吟剣詩舞振興会のコンクール予選が開催され、二十一日の品川区へ四一名、二十六日の港区に八一名、合計一二二名が挑戦しました。出場者の減少傾向が見られる中、今年も千代田の会員が健闘し次の方々が入賞されました。上位入賞の五二名が五月に開催の東京都大会に出場します。

品川区 二二名

- ◇一般一部 優勝 石井 浩泉 (新宿)
- 五位 大和田久美子 (新宿二)
- ◇一般二部 八位 小柴 藤山 (新宿)
- 十位 石坂 桂山 (新宿)
- 十四位 櫻井慎一郎 (神田)
- ◇一般三部 優勝 橋本 淳風 (新宿)
- 十位 宮川 丞山 (神田)
- 十一位 小林 公風 (神田)
- 十五位 宇田川静泉 (新宿三)
- 十六位 坂下 光泉 (新宿二)
- 十八位 加藤 有風 (新宿)
- 二二位 奈良崎應風 (新宿)
- 二四位 中井 武典 (清流)
- 二五位 塚田 正泉 (新宿)
- 二六位 川辺 掬山 (新宿)
- 優秀賞 粕川 紘風 (神田)
- 同 波治 藤山 (新宿)
- 同 加藤 雅泉 (清流)
- 同 久保 正義 (神田)
- 同 櫻河 義弘 (新宿)
- 前年優勝 (都大会出場) 平井 武泉 (神田)

港区

三七名

- ◇少年の部 優勝 小林 晴泉 (東陽町)
- ◇一般一部 優勝 清水 花泉 (銀座)
- 二位 大森 尚美 (桜ヶ丘)
- ◇一般二部 優勝 片山 寿風 (東陽町)
- 四位 小浦場伯泉 (ハザマ)
- 六位 大木 博泉 (新陵)
- 七位 田村 菊山 (調布)
- 八位 脇阪 緑泉 (東陽町)
- 九位 下條 信泉 (丸の内)
- 十位 関根 紀泉 (生田)
- 十二位 上田寿美江 (ハザマ)
- 十三位 和田 之泉 (新陵)
- 十六位 岡島加未子 (東陽町)
- 十七位 石母田敏江 (丸の内)
- 二十位 伊藤 彰一 (東陽町)
- 努力賞 伊藤 環山 (ハザマ)
- 同 藤村 恵山 (桜ヶ丘)
- 同 坪川 竜泉 (丸の内)
- 二位 犬飼 勇山 (ハザマ)
- 三位 中内 博風 (草加)
- 四位 蒲田 秋泉 (丸の内)
- 五位 柴田 豊泉 (新陵)
- 六位 宮野 幸山 (東陽町)
- 七位 長谷場純泉 (鎌倉)
- 八位 浪久 雅泉 (神楽坂)
- 九位 小梶 清泉 (新陵)
- 十一位 竹森 伊泉 (新陵)
- 十四位 松尾 宝山 (ハザマ)
- ◇一般三部 二位 犬飼 勇山 (ハザマ)
- 三位 中内 博風 (草加)
- 四位 蒲田 秋泉 (丸の内)
- 五位 柴田 豊泉 (新陵)
- 六位 宮野 幸山 (東陽町)
- 七位 長谷場純泉 (鎌倉)
- 八位 浪久 雅泉 (神楽坂)
- 九位 小梶 清泉 (新陵)
- 十一位 竹森 伊泉 (新陵)
- 十四位 松尾 宝山 (ハザマ)

「石の上にも三年」入賞の喜び

神楽坂 久保 洞泉

会に入会して六年、三度目の挑戦で先般港区吟詠コンクール予選にやっと入賞させて頂きました。先生方をはじめ多くの仲間のおかげです。有難うございました。

吟じた「青葉の笛」の選択が幸いしたのだと思います。源平の最終決戦、一の谷の戦いで愛笛「小枝」を取りに戻り、ただ一騎逃げ遅れ十七歳の若さで熊谷直実に討たれた平敦盛の悲劇―唱歌にまで歌われた日本人の心の故郷―への私自身の思い入れが吟詠に味をつけてくれたお蔭なのではないでしょうか。

翻って、今回のコンクール参加は詩吟研鑽の展望を与えてくれました。それはこのところサボっていた朝の散歩と素読百遍の励行です。少しでも聴く人の心に響く声を出すには、丹田を中心にし

た下半身を鍛えておくことだと先輩の皆さんの吟をじっくり伺って痛感いたしました。それには、前に一万歩は歩いていた毎朝の散歩を今は無理せず六千〜八千歩にして頑張っています。

次に、その必要は頭では分かっていますが真剣にやってみなかつた「素読百遍」に全力を挙げること。それはアクセントの意味を細部にいたるまで身につけ、吟を本物にしてくれる最短・最大の途であるし、家元をはじめ斯界の先駆者の吟譜作成のご努力とご遺産を蔑ろにしない私達の義務でもあると信ずるからです。

最後にこの場をお借りして今の若者たちに、ラーメン屋に一時間も二時間も並んでいることなどにたった一度の人生を費やすのではなく、詩吟に親しんでほしい！と願いたいものです。夢が持てるのです。

そして、詩吟から心身ともに健康を貰い、健全な日本社会建設に時間を使ってほしい！のです。ありがとうございます。



辛うじて入賞

桜ヶ丘教場長 笠 泰山

教場の入賞常連の大先輩が二人も誤読、おかげで入賞できました。先輩有難う？でも、実は真剣。新米教場長であるが故に率先出場せざるを得

ず、入賞者は上位五位くらいまでであればアツハハでよいが、入賞者率三〇%なんて顔が引きつるコンクール入賞でした。有難いことに教場からの出場者は全員初入賞できました。私も何とか恥をかかず済みました。

入賞の喜びにひたる

新宿第三 塚田 正泉

当日用事があり、全ての吟詠が終了するのを待つて退出させていただきました。その夜、宇田川教場長から「入賞おめでとう」の連絡を頂き思いがけない吉報にびっくりしました。

にぎやかな慰労会の席上で教場の皆さんの温かい祝福を受け、胸の高鳴る思いでした。有難うございました。

今回のコンクールで吟題に「母を奉じて嵐山に遊ぶ」を選択したのは理由がありました。幼児の頃、寝床はいつも母と一緒でした。熱が出たり歯の痛みで機嫌を損ねてぐずることがしばしば、なだめすかして寝かしてくれた母に甘えていたのです。家事育児に疲れている母にどれ程世話を焼かせたことか。苦勞をかけた母への思慕はつります。私には難しかった今回の吟、それでも詠う気持ちに至ったのは、亡母への情念に駆られた所以です。

二十五年に入会して四月で五年が経ちました。昇伝審査を控えた今、詩吟修得手帳の記録をしみじみ読み返しています。『心得』に、「吟の習得に、また態度に、真面目さを欠くとき、その人の吟は

死吟になる。生きた吟をやるためには常に謙虚な気持ちで真面目に勉強することが大切である（横山岳精）」然るに、反省しきり！

千代田岳精会の躍進を祈ってやみません。

チャレンジ

桜ヶ丘副教場長 藤村 恵山

この度は、港区吟詠コンクール予選に入賞することが出来ました。まだ出場するには早いと思っていました。また出場するには早いと思っていました。皆さんに押されて初出場、思いがけずも入賞できました。

ご指導して頂いた先生方に感謝し、今後の吟詠に生かしていきたいと思えます。

感謝

銀座 清水 花泉

このたび、初めて港区の吟詠コンクール予選に参加させていただきました。

登壇直前まで暖かいご指導で励まして下さった先生方と諸先輩に心から感謝いたしております。当日は緊張してマイクの高さ調節さえまならぬ有様でしたが、最後までしっかりと吟じる事が出来て良かったと思えます。

思いがけず一部で優勝を頂きました。この貴重な体験ひとつひとつを糧にして、これからも自分の声で吟じるよろこびを大切にしていきたいと思います。ありがとうございます。

初めての挑戦

桜ヶ丘 大森 尚美

今回初めてコンクールに挑戦させて頂きました。出場した一般一部は出場者が二人だけでしたので自慢できるような実力ではないのですが、コンクールに出場したことで沢山の方々の吟を聴くことができました。とても学ぶことが多かったです。今後の練習で役立てたいと思います。

それとコンクールに出場するにあたり、一緒に練習した先輩方からいろいろとアドバイス頂けたことが嬉しかったです。そして教場長はじめ沢山の先生方に指導して頂いたこと本当に感謝しています。尻込みせずコンクールに出場してよかったです。私の内に吟の世界が広がりました。皆様、本当にありがとうございます。

優秀賞を頂いて

新宿支部 川辺 勘山

思えば平成二十一年、今は亡き飯田精鷹初代会長から「君は声が大きいため、詩吟をやりなさい」と千代田の新宿教場に入れて頂きました。もう八年になります。良き先生方、仲間にも恵まれながらも、のんびり気楽に吟を楽しみ、あまり真面目にやってみなかつたのでコンクールではいつも誤読だったり、絶句でトラウマ状態でした。

今回は大好きな頼山陽作だったので頑張ってみようかなという気持ちになりました。賞などま

だまだの恥ずかしい吟なのですが、絶句のトラウマが解けた事が私には何より嬉しかったです。そして先生方のご指導に感謝申し上げます。有難うございました。

第四十回港区コンクール

新陵 西川 清悟

二回目のコンクール挑戦で入賞の荣誉に浴することができましたのも偏に鈴木会長を始め、多くの先生方のご指導と諸先輩から頂戴した助言の賜物と感謝しております。

今回も吟じ出しの音程が練習のたびに不安定で、心の片隅に不安を抱いたまま本番を迎えてしまいました。それに舞台慣れしていないことも加わって吟じ終えて先輩から、起句（吟じ出し）がスムーズではなかったとの率直な批判をいただき、不安が現実のものになっていたことを思い知りました。

詩吟に限りませんが、やるからには自信を持って臨みたいものだと思ってきました。そのためには、平素からの取り組み姿勢（自分の短所を克服する努力を怠らない、聴衆の前で吟じる機会を増やす等々）が重要であることを再認識しました。

コンクール終了後の講評で審査委員長の先生が言われた「練習の時は本番の気持ちで、本番の時は練習の気持ちで」という精神を愚直に守って、これからも精進していきたいと決意を新たにしている次第です。

東京都大会速報

五月開催の東京都大会で次の方々が健闘されました。

◇一般二部 入賞 東日本大会に出場します。

七位 片山 寿風 (東陽町)

◇一般三部 努力・奨励賞

十位 橋本 淳風 (新宿)

十四位 宮野 幸山 (東陽町)

十九位 中内 博風 (草加)

二十位 宇田川 静山 (新宿三)

◇少年の部 努力・奨励賞

十一位 小林 晴泉 (東陽町)

平成三十一年度 昇伝審査指定吟題

◆初伝

壇の浦を過ぐ 村上 仏山

春寒 大窪 詩佛

◆中伝

中秋月を賞す 西郷 南洲

九月十三夜陣中の作 上杉 謙信

※短歌(自由選題、教本の中から選ぶ)

A、B、C型のどれでもよい)

◆奥伝

三閭廟 載 叔倫

江南の春 杜 牧

※俳句(自由選題、教本の中から選ぶ)

◆皆伝

野の仏 福田 蓼汀

曲江 杜 甫

無料詩吟講座への道

熊谷教場長 小林 明風

「ちよだ」への寄稿依頼を頂いた時、熊谷教場の来し方をあらためて見ますと、

一、開設式 二十三年三月十一日 荒川公民館

二、開設一周年記念 二十四年四月十三日 ホテル

三、やさしい詩吟無料講座 二十五年九月二十七日 羽生公民館

四、創立六周年記念の集い 二十九年五月十一日 ホテル

五、やさしい詩吟無料講座 二十九年九月十四日 妻沼公民館

これを見た時、七年の間によくこれまでと自分ながら驚いています。でも考えて見た時、私自身企画をするだけで副教場長や会員の皆様がすぐ協力して進めて下さったので本当に教場長冥利に尽きます。その節は先生方には多大なご迷惑をおかけしております、本当に有難うございました。本題に入りますが会員増強のため妻沼に教場を作りたい旨、妻沼在住の森谷さんに相談した処、心よく承諾して下さい、早速手続きをお願いし妻沼公民館で無料講習会を九月十四日に開くことに決定いたしました。四年前に羽生で開催していたので、教材やチラシ作りも部分的に直すだけで作ることが出来ました。チラシは森谷さんが商店や食堂にも置いて下さいました。

当日は花山先生が遠い妻沼までおいで下さり

本当に感謝申し上げます。講習会にご参加下さった地元の三五名と先生、会員合わせて五〇名で盛大に終了しました。入会希望者も八名もあり、これは幸先が良いと思っていた矢先、代表の森谷さんが急病で倒れ、次の候補の方も家庭の事情で休会となり途方に暮れてしまいました。公民館利用の規則は厳しく、妻沼在住の代表と一〇名以上の会員という条件です。森谷さんや在住の方の名前をお借りしてやつと書類を提出できました。

入会者は三名になりましたが、十二月に一回と一月十一日から勉強を始めました。どうなることかと思いましたが羽生の会員の方達が、妻沼の方達がどうにかなるまではと、三十分かかる所を、車を連ねて応援して下さいます。午前中は羽生、午後は妻沼と副教場長の都合で行っております。

格言に「禍福は糾える縄の如し」、本当に身につまされました。去年の十一月の宗家の言葉に「教場という場も、そこに居合わせる吟友も、ご縁は天からの授かりもの」、本当に私は果報者であると自覚せねばならない思いに駆られます。

人生は今から、吟も今からです。共に学んでいきましょう。これからも宜しくご指導お願い致します。



鹿児島吟行会

前号まで続けて案内しました総本部の鹿児島吟行会は、公開講座責任者山口龍央副会長が宗家の公開講座を起爆剤として岳精流の未開拓地鹿児島へ教場を設立しようという大きな目標への挑戦でした。千代田からは三七名が参加しましたが、鹿児島出身或いは仕事で関わりのあった会員方々の出席呼びかけ等で現地の参加者は一一六名となり、二〇〇名近い会員と合わせ約三〇〇名の大講座となりました。ご協力下さった皆さんに感謝いたします。

この沢山の参加者を前に宗家の渾身の吟詠指導は、鹿児島でも多くの信奉者を擁する西郷南州の律詩「天意を知る」、続いて西道僊作「城山」を渡精華・前澤精淳副幹事長の連吟で鈴木君星さん（三河岳精会）の剣舞、最後は佐々友房作「吉次峠の戦い」を園田精鵬・佐藤精堂副幹事長・古城精宝（府中）の連吟で千代田の誇る舞者松尾宝山・小谷野弘山の二人が見事に舞い、参加者を魅了しました。

龍吟三月号に、参加の下條信泉・出水田鶴山・勝村忠山さんの感想文を掲載しましたので、三日間の吟行会の参加者の熱い思いが伝わったと思います。龍吟を読まれた感想を総本部広報へお送り頂きたく願います。

鹿児島へ教場開設の取組みは、指導者と教場の確保が鍵となりましたが、毎月の半分をご主人の郷里鹿児島で生活している田尻映山丸の内

教場副教場長が指導を引き受けることになり、更に公開講座の参加を主導してくれた鹿児島在の方々の尽力で、五月十七日に教場発足の運びとなりました。

新しい教場の門出にエールを送りましょう。教場の発展に更にご支援をお願いします。

袖井孝子（孝泉）さん特別講演会

「人生一〇〇年時代を輝いて生きる」

神楽坂教場の会員、袖井孝泉さん（お茶の水女子大名誉教授、シニア社会学会会長）が二月二十一日ホテルグランドヒル市ヶ谷で、勝村教場長が公益事業委員会会長を務める四谷法人会主催の特別講演会「人生一〇〇年時代を輝いて生きる」で社会学者としてさまざまな社会福祉に長く関わられた体験を講演されました。要旨を左記にご紹介します。

◆高齢社会や老人問題において、医療は長寿へ取り組み、介護は圧倒的に一家のお嫁さんが担ってきたが、現在には必要のない医療から撤退して安心して生涯を終えること、家族介護の主役は夫または妻、そして息子や娘へと変化している。

◆働き方も終身雇用から早期退職をして働き続ける社会へと変わっている。政治や経済の領域でも、人生七〇歳とか八〇歳位までを想定していたが、一〇〇歳時代が現実の問題となつて大慌てし始めているとのこと。

◆高齢社会をどう生きていくかという点、年齢を

超えて活躍していきましよう。袖井さん自身も五〇歳を過ぎて水泳、六〇歳になつて手話を学び、七〇歳を迎えて詩吟を始めた。

◆元気に生きていくためには若いうちからバランスの良い食事、しつかり距離を歩いて丈夫な足腰の維持、誤嚥性肺炎の予防に大きな声を出して喉の筋肉を動かし柔らかくすることが大事です。そして何より直接人と交わることで刺激を受けると発刺としていける。

◆少子高齢社会の暗い側面ばかり見るのではなく、明るい人生一〇〇年時代を作っていきたいものです。皆さん明るく元気で輝いて生きて下さい。

【参考書紹介】

「むのたけじ笑う一〇一歳」

（河邑厚徳著・平凡社新書）

「百歳人生を生きるヒント」

（五木寛之著・日本経済新聞社）

随筆

我が家の愛犬と詩吟

ハザマ支部 松田 俊二

我が家には二匹の室内犬がいます。

チョコ（♀）とゲンタ（♂）という名前のミニチュアダックスフンドで年齢は十三歳、兄弟同然のように仲良く生活を送っています。

チョコは娘が飼っていたのですが結婚したため私達夫婦と同居。ゲンタは息子夫婦と同居しています。また、我が家も二世帯同居住宅です。就

寝時以外は何時も二匹仲良く室内を駆け回って遊んでいます。

半年前に気が付いたのですが、私が詩吟の練習を始めると何時も私の横にチョコが座っており、詩吟を聴いているような姿に見えました。その後毎回練習時にチョコの行動を見ていたら何処からともなく現れ、私の横に座り気持ちよく観賞する姿を見て可愛さが増してきました。最近チョコだけでなくゲンタも同様な行動を取るようになり、二匹で私の独吟の練習をチェックしているような感じがしています。

未熟な詩吟をこれからも練習に励み、二匹の犬のため、自分のため、また支部教場に迷惑のかけられないよう努力して行く所存です。



【新 会 員 紹 介】

◇桜ヶ丘教場

尾形 いずみさん（十二月入会）

この度、入会させて頂きました尾形と申します。仕事、子育て、介護と長らく自分のための時間を作ることを忘れておりました。友人の勧めで参加しました詩吟に楽しみを感じております。早くお仲間になれたらと希望を持ち通い

ます。よろしくお願い申し上げます。

安崎 裕子さん（一月入会）

教場長の笠泰山さんにお誘いを受けまして入会させていただきました安崎裕子と申します。詩吟にご縁が出来たことに自分でも驚いています。見学にはお断りに行つたつもりが、帰りには「宜しく願います」と言つていました。末長く続けたいと思います。

◇東陽町支部教場

荒木 秀（まさる）氏（一月入会）

一月から習っています。ボート競技の先輩が、詩吟の教室が楽しいから荒木君もどう？と誘つて下さいました。漢詩の本を買つて勉強したり、教場はピンと張つた緊張感があり、教室後には処変えての交流もあつて楽しいよ！と。私は是非にと入会希望をお伝えしました。楽しい時、悲しい時、感動した時に徐に詩吟を口ずさめるようになったらいいなあと教室通いを楽しんでおります。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

吉原 雅巳氏（三月入会）

昨年定年退職した後、山歩き、マラソン、水泳等の運動系の趣味を中心に活動しておりますが、職場の先輩であつた脇阪副教場長に「長い人生、文化的な趣味を一つ持つべき！」と尤もなアドバイスを戴き、今回入会させて頂きました。全くの初心者ですが、宜しくお願ひします。

井上 昭治氏（三月入会）

定年後の主な趣味は、ゴルフ、テニスでした

が、友人の塩月氏から熱心な誘いで詩吟見学会に参加させて頂きました。二時間半の詩吟を終

えた感想は、喉の使用だけと思つていましたが全身の力を使い他のスポーツ同様な爽快感・疲労感に近いものを覚えました。いつまで続けられるか分かりませんが、諸先輩のご指導の程宜しくお願ひいたします。

◇志茂教場

向田 唯末さん（二十九年八月入会）

近所の詩吟の志茂教場の広告を見て小林公風教場長のお宅に電話、その夜神田教場に体験参加しては如何と誘われ、岳精会の素晴らしさに感動、即日入会を決意。その後一時病に冒され、長期休会しましたが、元気になり戻りました。

◇新宿第四教場

堀野 千恵子さん（十二月入会）

昨年当地に転居し少し落ち着いて、近くの公園にまいりました。水屋の中で「富嶽」を吟ずる方がおられました。主人の好みの吟でした。私は舞を致しておりました昔を思い出し、詩吟を初めて習うことになりました。主人を懐かしみながら、楽しく吟で暮らしたいと思ひました。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

◇用賀教場

権田 茂治氏（一月入会）

一月に入会致しました、どうぞ宜しくお願ひいたします。八年ほど前に約一年間経験しましたが、仕事の関係などでやめて以降中断しておりました。この度、機会を頂きましたので長く

続けていきたいと思つております。

編集後記

四月三十日、あと一年で天皇陛下が退位され平成が終わる。天皇は筆者と年代も近く戦前・戦中・戦後の体験は、立場は天と地であるが疎開、空襲体験、戦災の焼跡等殆んど違わなかつた。

昭和天皇は戦争責任を終生背負われ、負の影を身に纏われていたが、天皇はその遺産をしっかりと引き継がれ贖罪と見える慰霊の訪問を健康に不安を抱えながら皇后と共に国内外に続けられた。その姿勢は皇位を継がれたという責任感に加えて両陛下のお気持ちとして、同世代として心強く響き続けている。

お気持ちには十分に受け止めております。譲位のうちは、脊負つた重荷を下してどうぞ心安らかにお二人の人生をお送り下さいと申し上げます。

新天皇は両陛下の想いをしっかりと受け継いで、また新しい象徴として何かを表わす天皇となられることを期待しています。

昭和・平成そしてこれから決まる新しい年号と三代、世紀としても二十・二十一世紀を生きることになる天から与えられた寿命をどう受け止めるか考えています。

今号も多くの寄稿有難うございました。文面の一人ひとりの気持ちを戴きました。

八田 龍仁

